

JR四国労組自動車支部ニュース

2024年5月31日（No.17／1）

発行責任者／大谷 清

編集責任者／中村 鉄平

夏季賞与第1回交渉

**苦境を乗り越え黒字決算を達成した今こそ
組合員の想いに応える夏季賞与が不可欠！**

【社員】

要求額 基本給額の2.5カ月分

【パートナー社員（定年退職再雇用者）】

基準額 契約基本賃金の2.5カ月分

【パートナー社員（月給・日給適用者）】

基準額

調査期間内の勤務日数	運転係	構内運転係	営業係等
65日以上120日未満	187,000円	172,000円	159,000円
120日以上	374,000円	344,000円	318,000円

【サポーター社員（時給適用者）】

基準額

調査期間内の労働時間	支給額
240時間以上350時間未満	80,000円
350時間以上450時間未満	120,000円
450時間以上550時間未満	180,000円
550時間以上650時間未満	195,000円
650時間以上750時間未満	210,000円
750時間以上850時間未満	228,000円
850時間以上950時間未満	245,000円
950時間以上	262,000円

【支払日 2024年7月8日（月）】

JR四国労組自動車支部ニュース

2024年5月31日（No.17/2）

発行責任者／大谷 清

編集責任者／中村 鉄平

JR四国労組は5月31日、申第19号「2024年度夏季賞与の要求について」及び申第20号「2024年度準組合員（契約社員）の夏季賞与の要求について」団体交渉を開催した。（要求書は別紙参照。）

＜主な交渉内容＞

組合：2023年度は営業損益、経常損益での5期ぶりの黒字を達成し、最終損益も2期連続の黒字決算となったが、まさにコロナ禍の苦境から脱却できた1年となった。収入面からは高速バス路線の大半が運行する状況になり、ダイヤ改正や運賃改定によって大幅に回復するとともに、コロナ禍前と比しても運行規模の縮小に鑑みれば十分な水準まで引き上げられたといえる。足もとでは乗務員不足により計画運休を実施しているものの、決算は少ない要員の中で皆が協力し合い結果を残したという、組合員の努力の賜物に他ならない。2024年度も引き続き事業計画を共有し、営業損益での黒字基調を確かなものとすべく取り組んでいく考えであるが、早急な要員確保が求められる。

一方で、安全面からは2023年度に2度にわたり行政処分を受けるなど、課題が山積しているといえる。JR四国労組は自動車支部をはじめ、安全を最優先課題と捉え、安全・安心輸送に向けて運動を展開してきた。しかし、重大事故、重大事象に至らずとも運転事故、輸送障害、車両故障が相次いで発生している。やはり、安全なくしては経営が成り立たず、労働条件改善も果たせないとの認識を持ち、組合内でも各事象をしっかりと共有し、対策実施の徹底を呼び掛けていく。

そして、繰り返し申し上げているが、会社の危機的状況をこれまで十分に理解し各種施策に協力してきたものの、組合員だけでなく家族も本当に我慢に我慢を重ねてきた。その我慢のうえに、苦境を乗り越えてきたのは間違いない。ようやく経営が安定してきた中で、ここ数年の物価上昇も踏まえながら、組合員の生活に以前のように戻していかなければならない。したがって、賃金や賞与をあるべき水準に引き上げていかなければ、人財確保も支障を来しかねない。とりわけ、賞与は生活給としての側面からも極めて重要なものであり、春闘交渉でベースアップを獲得し反響も大きかったが、賞与への期待感も非常に高い。その期待に応えられなければ人財流出にもつながりかねず、最大の経営資源たる「人」、つまり組合員に対する先行投資が不可欠。これは成長投資であり、安全投資であると認識すべきであり、組合員の想いに応えるべく、誠意ある回答を求める。

会社：2023年度決算については貴側からあったとおりであるが、2024年度に入ってから収入状況としては4月が対2019年度で71%、対前年100%にとどまっており、5月30日までの速報だと輸送人員ベースとなるが対前年で100%を切っている。さらに、昨年5月8日に新型コロナウイルス感染症の分類引き下げがあったことから、今後厳しい状況が想定される。貴側の要求趣旨は理解したが、貴側の要求主旨、会社の体力、世間相場等を勘案しながら判断したいと考えている。営業黒字が出たと言っても、新車購入に

JR四国労組自動車支部ニュース

2024年5月31日（No.17／3終）

発行責任者／大谷 清

編集責任者／中村 鉄平

よる減価償却費の影響が僅かであったことや今後も車両更新などの設備投資が必要となることから、手放しでは喜べない。今年度の人件費にはベースアップも反映されるが、賃金や賞与の改善に向けても会社が問題意識を持っていることは理解して欲しい。

安全についても毎度話を出しているように、事故等そのものに加えて、付随する対応や再発防止などにも経費が掛かってしまう。特に静止物との接触事故が多く、ハード対策も講じているが十分に気を付けて欲しい。引き続き労使で安全・安心輸送の継続に向けて取り組みたい。

組合：査定期間である2023年度下期については、中間決算からの積み上げを考慮すれば相当な額となる。大幅な黒字転換により組合員だけでなく、家族も不安が解消された。これまで休み返上で頑張ってきた組合員とそれを支えてきた家族がいるからであり、物価上昇が生活を苦しめていることから、今度も会社でがんばろうと思えるように改善していかなければならない。とりわけ、賞与についてはコロナ禍前にいかに近づけていくかということが注目されている。要求月数も支部内で議論を重ねてきたうえで、期待感の高さも踏まえた結論である。今年度に入ってから収入状況には計画運休の影響が大きいと考えられ、早急かつ確実な人財確保が望まれる。したがって、採用面でのアピールにつながる賞与をしっかりと出すこと。

安全については、これまでも呼びかけてきたが、一層気を引き締めなければならないと認識する。会社としても組合からの声に応えてくれていることは理解するが、件数にも内容にもこだわって安全・安心輸送を継続していきたい。

会社：バスの特性から、最後は乗務員の注意等に頼らざるを得ない。安全投資については、必要なものから優先的に進めているが、引き続き他社の取り組みなども参考に検討していく。乗務員からすれば、危険を感じたり、不安があっても簡単に停車等できないことも理解するが、「まず止める」というのが基本。ハイソリッヒの法則があるが、最後の「1」である重大事故・重大事象にも迫っていると認識しておかなければならない。

新規採用も進めており、養成にも苦労しているが、ここを乗り越えれば少し余裕が出るところにいてと考えており、本社からの応援も実施しながら対応している。長く勤めて欲しいという思いは会社も同じ。計画運休も可能な限り早急に解消していきたいし、夏季多客期間までには何とかしたい。

組合：続行便が増えてこなければ、収入も伸びないのではないかな。

会社：まずは定期便の運行再開が優先されるが、状況に応じて続行便も出したい。しかし、運行しても乗ってくれないと経営的にもダメージが大きい。

最後に組合は「経営が回復した今こそ、『安全・安心輸送』をはじめ、収入確保・経営改善の原動力となる組合員のモチベーション維持・高揚が不可欠。したがって、組合員とその家族の期待に応えられるよう、夏季賞与に対して誠意ある回答を強く求める」と訴え、交渉を継続することとした。

以 上

J R 四国労組申第 19 号
2024 年 5 月 15 日

ジェイアール四国バス株式会社
代表取締役社長 高須賀 浩 殿

四国旅客鉄道労働組合
執行委員長 大谷 清



2024 年度夏季賞与の要求について

ジェイアール四国バスの 2023 年度決算は、輸送機関の最大の使命である安全・安心輸送を基本に、基幹事業部門である高速バス路線を中心として収入確保に努めた結果、損益の大幅改善を果たし、5 期ぶりとなる営業損益、経常損益での黒字、さらには 2 期連続の当期純損益での黒字決算を達成した。一方、安全面については、同一年度に 2 度にわたる行政処分を受けるなど、安全・安心輸送の根幹を揺るがす事態に至った。2024 年度においては、安全教育の重要性を再認識し、再発防止に向けた各種施策を通じた「安全・安心輸送の確立」への取り組みを強化しようとしている。また、営業損益での黒字基調への転換をより確かなものとする年度と位置付け、将来に亘り安定的に黒字計上可能な経営体質とすることを事業計画に掲げた。しかし、乗務員不足が減便等を招くなど極めて重大な経営課題となっていることから、引き続き厳しい経営環境が想定される。

こうした中、J R 四国労組組合員は「安全・安心輸送の確立」に努め、各職場で日々奮闘してきた。また、要員不足による休日勤務等が余儀なくされる中、会社の置かれた状況を理解し、効率化施策のみならず、家族や家計にも影響の及ぶ施策にも協力するなど、責任組合として責任と自覚を持った運動を展開している。

すでに黒字決算を達成し、コロナ禍を乗り越えたともいえるが、将来にわたりジェイアール四国バスの社会的使命を果たし続けるためには、会社を信じ最大限協力してきた組合員の想いに応える必要がある。したがって、最大の経営資源である「人」に対する先行投資を通じた経営改善を推し進め、労使一体で取り組んでいくため、2024 年度夏季賞与を下記のとおり要求するので、誠意ある回答をされたい。

記

- 1 要 求 額 基本給額の 2.5 カ月分
- 2 支 払 日 2024 年 7 月 8 日（月）

以 上

J R 四 国 労 組 申 第 2 0 号
2 0 2 4 年 5 月 1 5 日

ジェイアール四国バス株式会社
代表取締役社長 高須賀 浩 殿

四国旅客鉄道労働組合
執行委員長 大谷 清



2 0 2 4 年 度 準 組 合 員（契約社員）の夏季賞与の要求について

2 0 2 4 年 度 準 組 合 員（契約社員）の夏季賞与の要求については、士気高揚の観点から
下記のとおり要求するので、誠意ある回答をされたい。

記

- 1 パートナー社員（定年退職再雇用者）
(1) 基準額 契約基本賃金の 2 . 5 ヲ月分

- 2 パートナー社員（月給・日給適用者）
(1) 基準額

調査期間内の勤務日数	運転係	構内運転係	営業係等
65 日 以上 120 日 未 満	187, 000 円	172, 000 円	159, 000 円
120 日 以上	374, 000 円	344, 000 円	318, 000 円

- 3 サポーター社員（時給適用者）
(1) 基準額

調査期間内の労働時間	支給額
240 時間 以上 350 時間 未 満	80, 000 円
350 時間 以上 450 時間 未 満	120, 000 円
450 時間 以上 550 時間 未 満	180, 000 円
550 時間 以上 650 時間 未 満	195, 000 円
650 時間 以上 750 時間 未 満	210, 000 円
750 時間 以上 850 時間 未 満	228, 000 円
850 時間 以上 950 時間 未 満	245, 000 円
950 時間 以上	262, 000 円

- 4 支払日 2 0 2 4 年 7 月 8 日（月）

以 上